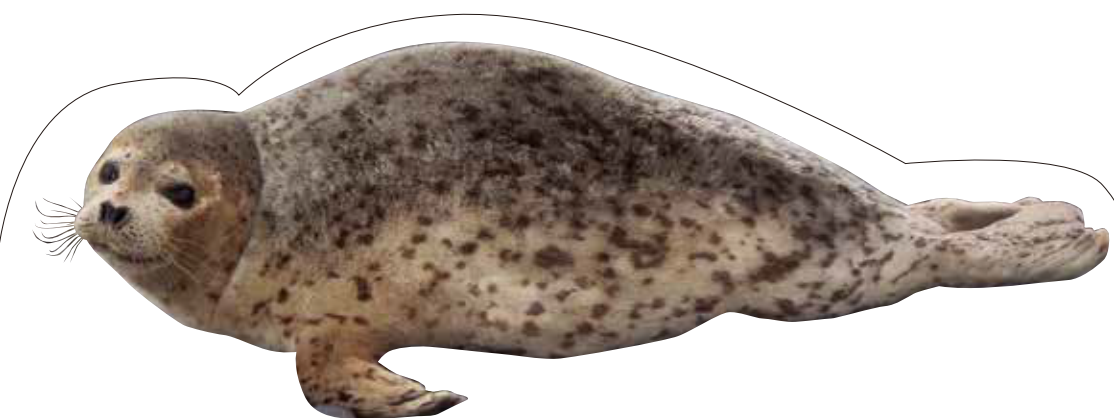
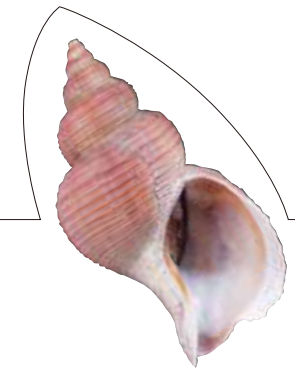




研究室紹介

海洋水産学科は、2分野 4研究室に分かれます。

水圏フードシステム分野

水産増殖学 研究室



水圏 生産科学 研究室



水 圏 共 生 分 野

水圏生態学 研究室



海洋生物学 研究室



野外調査で観察された事象を 室内で再現することで、さらに詳細な理解を

当研究室は、生態系のバランスを意識した、持続可能な魚・藻類の増殖方法の確立を目指すとともに、それら天然資源の保全のあり方について考えていく。具体的には、オホーツクで増殖の行われている魚種を対象に、より効率よく、より自然に調和した増殖の道を探る。そのためにこの研究室は、いまだ未解明の多い対象魚種の生態の解明と増殖水域の環境の保全に関する研究を大きなテーマとし、海や川へ出でのフィールドワーク、実験室内での飼育や培養、顕微鏡下での観察など幅広いアプローチから研究を行っている。また、自然と調和した新たな増殖対象種の可能性についても検討していく。

持続可能な次世代養殖技術の開発

国際連合食糧農業機関は、世界の人口が2050年までに90億人を超えると予想している。人口増加が避けられない中でも動物性タンパク質の安定供給が望まれるが、天然海域における水産資源の開発が進んでおり、新たな資源の発見や利用が難しいのが現状である。また、漁獲される魚類の種や量の変化が水産業に大きな影響を及ぼしているため、環境への負荷を最小限に抑えた持続可能な増養殖技術により、魚介類を安定して確保することが喫緊の課題である。当研究室では染色体操作を利用した新品種の開発、対象種毎に異なる生態に最適化させた飼育・生産技術、生物生産にあたり避けて通れない病害防除技術など、水産資源を「殖やす・保全する」ための「安心・安全・簡便」な技術を研究開発し、オホーツクの水産業を通じて食糧問題の解決に貢献することを目標としている。

オホーツク海の豊かさを支えている 仕組みを解明する

豊かな海と言われるオホーツク海であるが、豊かさを支えている生態系や環境の仕組みは未だ謎のまま。またオホーツク海は北半球で海が凍る南限であり、我が国において地球温暖化の最前線とも言われている。この豊かな海からの恵みを今後も保持するためにも、これら仕組みの解明は差し迫った課題である。当研究室では、地の利を活かし北海道オホーツク沿岸域を中心として、生物学的、化学的、物理学的な視点から豊かさを支えている仕組みを解明し、地球温暖化などの環境変化が生態系に及ぼす影響を評価していく。

オホーツク圏の多彩な生き物を 様々な方法を駆使して、その謎を解明する！

当研究室では、オホーツク圏とそこに隣接する冷水域の高次捕食者を対象に、様々な手法を用いて調査研究を行っている。例えば、アザラン類や鯨類（イルカ、シャチを含む）について、野外調査による生態解明や骨格観察、DNA解析などを通して、人間活動との関わりを考える。道東域で重要なサケマス・イワナ類も主要な研究対象であり、性フェロモンの分析とその行動生理学的な研究や、フィールド調査を通じて生態・進化・保全に関する研究を進めている。また、オホーツク海での乗船調査を実施し、北海道の網走沖のナガスクジラから魚類の食性を調べることで生態系の繋がりを調べている。このように、冷水域の高次捕食者を対象に、生態系の繋がりを、水圏生物の生理・生態・多様性を幅広く学ぶことができる。



農 東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス
生物産業学部 海洋水産学科
〒099-2493 北海道網走市八坂196番地



ACCESS

女満別空港まで 札幌から 45分
東京から 100分
名古屋から 110分

網走駅よりバスで30分
女満別空港より車で20分

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス 入学センター
TEL 0152-48-3814 FAX 0152-48-2246
E-mail nyushi01@nodai.ac.jp

学科ホームページ



学科Instagram



ここにしかない海がある。ここでしかできない研究がある。

海洋水産学科のご案内



農 東京農業大学
生物産業学部 海洋水産学科

